

平成30年度 収入支出の決算概要

一般勘定

●収入

科 目	決算額
健康保険収入	2億2,690万2千円
調整保険料収入	325万1千円
繰入金	2,296万4千円
国庫補助金収入	376万6万円
財政調整事業交付金	93万円
雑収入	493万5千円
合 計	2億6,274万8千円
経常収入合計	2億3,583万7千円

●支出

科 目	決算額
事務費	3,788万9千円
保険給付費	9,345万7千円
法定給付費	9,336万1千円
付加給付費	9万6千円
納付金	9,698万4千円
前期高齢者納付金	4,576万4千円
後期高齢者支援金	5,077万2千円
退職者給付拠出金	44万8千円
保健事業費	1,560万1千円
還付金	2万9千円
財政調整事業拠出金	325万1千円
連合会費	44万1千円
積立金	79万1千円
雑支出	38万6千円
合 計	2億4,882万9千円
経常支出合計	2億4,557万8千円

収支差引額	1,391万9千円
経常収支差引額	△974万1千円

介護勘定

●収入

科 目	決算額
介護保険収入	2,188万5千円
繰入金	307万5千円
国庫補助金受入	30万3千円
雑収入	3万3千円
収入合計	2,529万6千円

●支出

科 目	決算額
介護納付金	2,418万1千円
介護保険料還付金	5千円
支出合計	2,418万6千円

平成30年度決算 収支の割合

収入

一般勘定

健康保険
収入
86.4%

調整保険料
収入
1.2%

国庫補助金
収入・
財政調整
事業交付金・
雑収入
3.7%

繰入金
8.7%

支出

事務費
15.2%

保険給付費 37.6%
 法定給付費 37.5%
 付加給付費 —

納付金 39.0%
 前期高齢者納付金 18.4%
 後期高齢者支援金 20.4%
 退職者給付拠出金 0.2%

財政調整
事業拠出金
1.3%

保健事業費
6.3%

連合会費・その他 0.7%

※ 端数処理の影響で支出合計は100%になりません。



平成30年度
収支決算
まとまる

保険給付費は減少。
しかし、納付金は増加し
経常収支で赤字決算に

平成30年度の事業報告および収入支出決算報告が、
7月4日に開催された
第71回組合会において承認されました。

健保組合の全国組織である健康保険組合連合会
(以下、健保連) が発表した「平成31年度健保組
合予算早期集計結果の概要」によると、全組合
の6割を超える856組合が赤字予算を編成し、
経常収支の差引額は986億円になるとのこと
です。平均保険料率は12年連続で上昇していま
す。厳しい財政状況の要因としては、高齢者医
療への過重な納付金の負担があげられます。
さらに2022年からは団塊の世代が後期高
齢者になり始め、後期高齢者数が毎年4%ずつ
増えます。そのため納付金への拠出額増加が必
至といわれています。
何よりもご自身とご家族のために、そして大
切な健康保険組合をこれからも維持していくた
めにも、より一層、健康管理への意識を高めて
いきましょう。

健康保険

当健保組合の平成30年度決算状況につきま
しては、経常収支で赤字となりました。

収入面では、健康保険収入は前年度より2
005万7千円多い2億2690万2千円で
した。支出に対して不足する収入額を補うた
めに積立金を取り崩して繰り入れました。

一方、支出面については、皆さんの医療費
や一時金などに充てられる保険給付費は、前
年度より1432万4千円少ない9345万
7千円でした。

また、高齢者医療制度を支える財源として
負担している納付金は、前年度より1466
万3千円多い9698万4千円でした。納付
金は支出全体の39%を占めており、依然と
して大きな財政的負担となっております。

保健事業費には1560万1千円を執行し
て、人間ドックをはじめ疾病予防に注力しま
した。

以上の結果、平成30年度決算も経常収支で
赤字となりました。

介護保険

介護勘定の収入支出決算は、収入2529
万6千円、支出2418万6千円、差引額は
111万円でした。